



年 組 名前

道新ワークシート

禁輸 道内の水産加工窮地

ホタテ 3分の1が中国向け



オホーツク管内で水揚げが続くホタテ。中国向けの輸出が停止し、多くが行き先を失う恐れがある

処理水放出

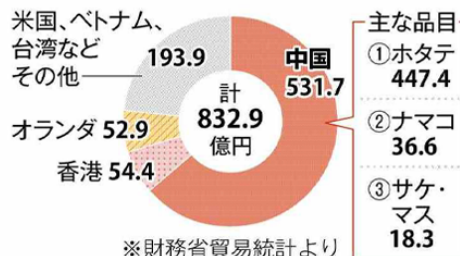
東京電力福島第1原発の処理水放出を受け、中国が日本の水産物輸入を全面停止し、道内の水産加工会社が危機感を強めている。道内からの輸出額が最も多いホタテは、水揚げの3分の1以上が中国向けで、大量の在庫を抱える企業も出始めた。保管料がかさむ上、輸出を前提に設備投資を進めていた企業もあり、関係者からは「このままでは倒産が相次ぐ」との声が漏れる。道は29日に、道漁連などと協議会を立ち上げ、対応を急ぐ構えだ。(3面||トリチウムどこへ、5面||知事が国に緊急要請、6面||上海の業者悲鳴)

大量在庫抱える業者も

「来週も中国に冷凍面貝を輸出する予定だったが、急きょキャンセルになった」。宗谷管内のホタテ加工会社は25日、中国が前日に打ち出した日本産水産物の全面禁輸を受け、対応に追われた。貝殻が付いた「両貝」や貝柱のみの「玉冷」などの冷凍ホタテを、多い年で7千〜8千ト輸出してきたが、今後はその多くが行き先を失い、自社倉庫で保管することになる。

事前契約したホタテもあり、今後も一定程度は買い続けなければならないが、

道産水産物の国・地域別輸出額(2022年)



- 主な品目
- ①ホタテ 447.4
 - ②ナマコ 36.6
 - ③サケ・マス 18.3

はさばけそうになく、価格が暴落する可能性が高まった」と表情を曇らせる。道内の水産加工会社ではここ数年、扱う水産物を、減少傾向にあるイカやサンマなどから、水揚げが比較的安定し輸出も伸びているホタテに切り替えるケースが増えていた。ホタテ用の加工機械を導入した企業にとっては裏目に出た形で、帝国データバンクは「中国の措置が長期化すれば倒産する加工業者が増える(情報統括部)」とみる。ホタテ以外への影響も懸念されている。道内で9月から漁が本格化する秋サケ

は、頭や内臓を取り除いて中国に輸出されており、水産加工業者の間では「取り扱う量は減るだろう。価格下落も避けられない」との見方が広がる。道は25日、処理水の放出に関する特別相談窓口を本庁や各振興局に設置。26、27日も水産経営課や中小企業課が資金繰りなどの相談に応じる。29日には道内経済に与える影響や対応について話し合う協議会を立ち上げる。道漁連や北海道水産物加工協同組合連合会などが加わる予定だ。(今井潤、権藤泉)

